

# ときめき人

Tokimeki bito



## かやぶきの魅力は 外観だけじゃない 使われてこそ 価値がある

豊里町・新町

### 小林 功さん

こばやし・いさを  
1973年生まれ



遠田郡涌谷町にある竪穴式住居の構造をした作業場。かやぶきに興味を持ってくれた人が、葺き替えを体験できるようにあえて未完成のままにしている。

「縄文時代から使われているかやぶきは、古いイメージがありますよね。でも、実は最先端なんです」と全国でも100人ほどしかいないという、かやぶき職人の小林さんは笑う。

15年間石巻市のかやぶき屋根会社で修業後、独立。現在は原料となるヨシなどの刈り取りから運搬、葺き替えまで全て一人で担っている。

現在国内では、特例の場合を除き、かやぶき屋根の建築物は新築できない。すでにある建築物の修繕に限られているが、それでもかやぶきの魅力を伝えていきたいと小林さんは話す。「海外だと、何気ない街並みでもシャッターを切りたくくなりますよね。そんな魅力がかやぶきにはある。言葉では言い表せない魅力を伝えたい」と目を輝かせる。

かやぶきの魅力は見た目だけではない。屋根材にすると瓦の倍ほどの重さになり、地震に強い。原料は、草刈りなどで処分されるヨシなどだが「新しいものに買い替えるのではなく、普段捨てているものを利用することが一番のエコ。現代の使い捨てる概念を変えたい」。

世界中で「MOTTAINAI」という言葉が注目される中、ヨーロッパなどではかやぶき屋根の建物が増えているという。「かやぶきを使った犬小屋や門松も作っています。大事なものは中身。使うことで素晴らしさに気付いてもらいたいですね」。

ただ「残す」ではなく、その価値を伝えたい。かやぶきがもっと身近になることを願い、魅力を伝える続ける小林さんは、今日も作業に汗を流している。

## 編集後記

▼今号では特集を担当。観光パンフレットには書いていない歴史や物語を知ることができ、地域には、まだまだ隠れた魅力があると感じました。今の私たちの生活があるのは先人の知恵や工夫のおかげ。皆さんも、地域の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。(高橋)

▼取材でカメラを使うようになり約2カ月。少しずつですが、場面ごとに設定を調整できるようになりました。ただ、人を撮るのは難しいですね。撮影した場所では同じに見えても、後で確認すると一コマ一コマの表情が違います。取材する人の一番良い表情を伝えていきたいです。(三浦)

▼写真撮影研修会「基礎編」に行ってきました。異動後すぐに、カメラの使い方や撮影のコツを教えてもらいましたが、実務を経て1カ月半後に改めて学ぶことで、より理解できたような気がします。写真技術の向上に励み、何回でも見たくなる写真を掲載できるように頑張ります。(小野寺)



### 登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>

